

## 神奈川県金融経済概況（2017年1月）

### I. 概況

神奈川県の景気は、回復の動きがみられている。

すなわち、企業部門をみると、生産は持ち直しの動きが続いている。輸出は減少している。設備投資は一段と増加している。家計部門をみると、雇用・家計所得環境は全体として改善しており、個人消費は持ち直しの動きがみられる。この間、住宅投資は増加している一方、公共投資は減少している。

金融面をみると、貸出、預金ともに引き続き増加している。

### II. 実体経済

(1) 生産： 持ち直しの動きが続いている。

- ・ 輸送機械は、新興国向けトラックが低迷しているものの、国内向けトラックが堅調なほか、国内向け乗用車も新車投入効果により増加しているなど、持ち直している。
- ・ 素材関連は、石油・石炭が定期修理の影響で一時的に減少しているものの、化粧品や鉄鋼が増加していることから、持ち直しの動きがみられる。
- ・ 電気機械は、発電施設向け機器の生産規模の縮小の影響がみられるものの、電子部品・デバイスなどが下げ止まりつつあるほか、外需向け基地局通信装置や自動車向け製品が増加しているなど、持ち直しの動きがみられる。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、半導体等製造装置が高水準で推移している中、工作機械が増加しているほか、外需の下げ止まりを背景にはん用機械類に底打ちの兆しがみられることから、持ち直しの動きがみられる。

(2) 輸出： 減少している。

- ・ 北米やアジア・中東向けの自動車を中心に、減少している。

(3) 設備投資： 一段と増加している。

- ・ 16/12月短観における、16年度の設備投資は、前回調査比上方修正となり、引き続き前年を2割程度上回る計画となっている。製造・非製造業ともに、既存設備の維持・更新に加えて、研究・開発投資や業容拡大を企図した能増投資などがみられている。

(4) 雇用・家計所得環境： 全体として改善している。

- ・ 11月の有効求人倍率（勤務地ベース）は1.29倍と、前月の水準（1.31倍）を下回った。また、10月の現金給与総額は前年並みとなった。この間、16/7-9月の完全失業率は3.4%と、前年同期（3.4%）並みとなった。

(5) 個人消費： 持ち直しの動きがみられる。

- ・ 百貨店売上高は、化粧品が引き続き好調な中、身の回り品や高額品など一部商品では足もと改善の兆しがみられるものの、衣料品などの販売が伸び悩み、総じて弱い動きとなっている。
- ・ スーパー売上高は、食料品を中心に持ち直している。
- ・ 家電販売額は、携帯電話が新商品投入効果の剥落などから動きが鈍いものの、高機能製品を中心に白物家電などが堅調であり、全体では下げ止まっている。
- ・ 新車登録台数は、小型・普通乗用車では、各メーカーにおける新車投入効果から、高い伸びとなっているほか、軽乗用車でも、燃費データ不正問題の影響緩和や新車投入効果もあって、底入れの兆しがみられており、全体では持ち直している。

《参考》

- ・ 県内観光・レジャー施設の利用状況や、ホテル・旅館の稼働状況をみると、総じて堅調に推移している。

(6) 住宅投資： 増加している。

- ・ 着工ベースで見ると、持家が減少した一方、分譲マンション、貸家、分譲戸建てが増加している。

(7) 公共投資： 減少している。

- ・ 12月の公共工事請負額は、独立行政法人、市町村などが減少したことから、前年を下回っている。

### Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、引き続き増加している。個人向けでは、住宅ローンを中心に引き続き増加しているほか、法人向けでは、不動産業を中心に増加している（貸出金末残前年比：10月+1.2%→11月+1.8%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、引き続き低下している（月末貸出約定平均金利：10月1.235%→11月1.222%）。

(2) 預金： 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比：10月+2.3%→11月+3.1%）。

以 上

---

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。